

エコミュージアム日本村



植物と人々の博物館の由来と活動

2003年10月16日に雑穀在来品種を保存、普及することを目的に設立したミレット・コンプレックスは、第1回雑穀栽培講習会を2004年5月に行い、地域の栽培技術顧問の指導により雑穀在来品種を保存し、理解を深めるために雑穀文化セミナーを開催してきました。第5回雑穀栽培講習会（2006年5月）からこの活動は「植物と人々の博物館」の事業として引き継ぎました。小菅村中央公民館の耐震工事に際して（2017年7月）、井狩集落に移転しました。

植物と人々の博物館の目的

日本村のコアミュージアムが「植物と人々の博物館」です。植物と人々をめぐる伝統的の知恵を受け継ぎ、秩父多摩甲斐国立公園内での山村振興モデルを提案します。山里を訪れると、美しい里山、採りたての山川の幸、雑穀や野菜の在来食材、郷土の伝統料理、心地よい温泉をゆったりと楽しむことができます。そのうえ、植物と人々をめぐる絵本、農林業の実用書、料理書、植物誌、植物学の古典書などの良い本にめぐり会えます。

運営主体

特定非営利活動法人自然文化誌研究会が業務運営をしています。ミュージアム研究会（トランジション小菅）はエコミュージアム日本村づくりの具体的な企画や将来計画を検討、提案しています。山梨県小菅村は東京学芸大学と社会連携協定を結んでいます。自然文化誌研究会は東京学芸大学環境教育研究センター、冒険探検部、サークルちえのわと連携しています。



雑穀栽培見本畑(小菅の湯の下、中組地区)



植物と人々の博物館（井狩バス停近く）

環境学習活動

展示：「生き物の文明へ、五感を研ぎ、第六感を澄ます」をテーマに、自然文化誌研究会・東京学芸大学探検部の民族植物学収集品を中心に展示構成をしています。

森とむらの図書室： 民族植物学、山村・農林業、環境学習などに関わる国内外の図書・雑誌を約4000冊、藤野分室（農業生産法人藤野倶楽部・無形の家内）には植物病理学、農業教育関係の図書約1500冊を置いています。雑穀、南アジア、環境教育、地域振興関連の資料に特色があります。

雑穀街道普及会： 国内外各地から収集した雑穀の標本の整理、縄文文化の系譜を象徴する山畑の在来作物、

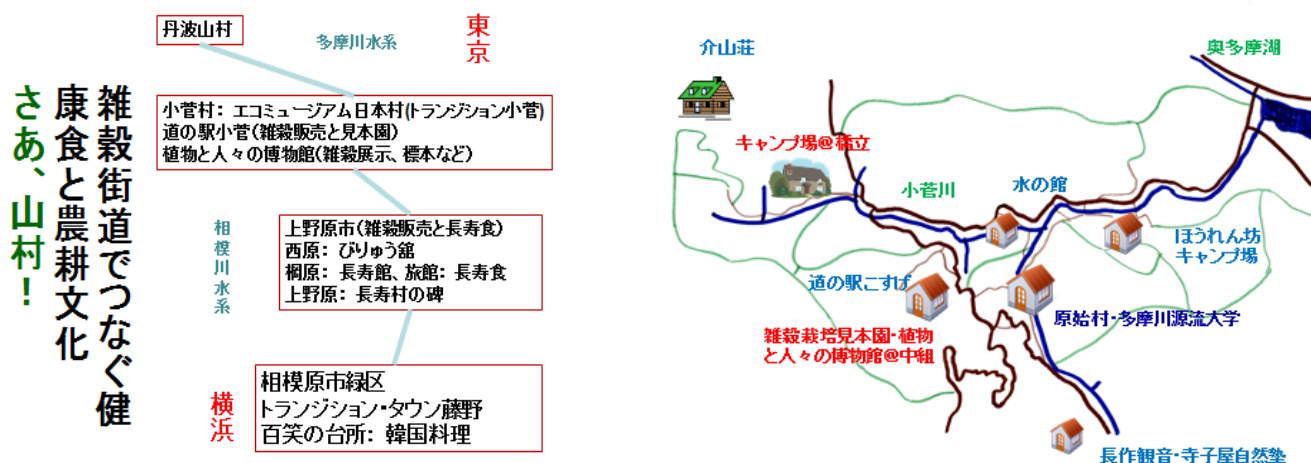
雑穀や野菜の栽培を継承するために、FAO 世界農業遺産の登録申請を進める活動をしています。2019 年～2028 年は国連家族農業の 10 年、2023 年は国際雑穀年です。

栽培講習会・セミナー・解説・講義： 日本の環境教育学の源流である環境学習セミナー、雑穀栽培講習会、展示解説、講義（日本村塾民族植物学・扶桑くに・自給農耕）などを要請に応じて開催しています。

普及啓発： 環境学習、山村農への認識を広めるためにメールマガジン（活動報告月 1 回）、民族植物学ノオト（研究報告年 1 回）を発行し、関係論文や報告書をホームページでも閲覧できるようにしています。植物と人々の博物館のホームページは国立国会図書館の e デポに登録しています。



展示、図書、雑穀標本・民具收藏などを行っています



エコミュージアム日本村のサイト

開館日： 原則として毎週金曜日 9 時から 14 時ですが、天候によって変更します。また、参観などのご希望があれば、その日程はご相談に応じます。下記担当者にメールください。

特定非営利活動法人自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/> (公式ホームページ担当黒澤友彦)

事務局連絡先： 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2 特定非営利活動法人自然文化誌研究会

電話： 090-3334-5328 e-メール：npo-inch@wine.plala.or.jp

友の会費（3,000 円）やご寄付は右記へ 郵便振替口座：00100-2-665768 特定非営利活動法人自然文化誌研究会

博物館調査研究担当者連絡先： e-メール：kibi20kijin@yahoo.co.jp (メールマガジン担当木俣美樹男)

<公式ホームページ>植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/> (担当西村俊)

<個人ホームページ>生き物の文明への黙示録 (民族植物学、環境学習原論)

<http://www.milletimplic.net/> (日本村塾担当木俣美樹男)